

国内クレジット認証委員会御中

## 審査結果概要書

平成 21 年 9 月 30 日

審査機関名 S G S ジャパン株式会社

### 1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	株式会社白興 三郷工場及び日高工場における、ボイラー更新による省エネ事業
排出削減事業者名	株式会社白興
排出削減共同実施事業者名	株式会社 日本環境取引機構
事業実施場所	三郷工場 (埼玉県三郷市市助 126-2) 日高工場 (埼玉県日高市原宿 487)
事業の概要	三郷工場では、A重油ボイラー6台を、都市ガスボイラー7台へ更新、日高工場では、A重油ボイラー3台を、都市ガスボイラー3台へ更新することによって、CO <sub>2</sub> 排出量の削減を図るものである。
排出削減量の計画	三郷工場 1,581 tCO <sub>2</sub> /年 (事業実施期間合計 6,997 tCO <sub>2</sub> ) 日高工場 771 tCO <sub>2</sub> /年 (事業実施期間合計 3,598tCO <sub>2</sub> )
国内クレジット認証期間	三郷工場 開始日 2009年1月1日 終了予定日 2013年3月31日 日高工場 開始日 2008年10月1日 終了予定日 2013年3月31日
排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新

## 2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している

## 3. 実施した審査手続の概要

審査手続により、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続
日本国内で実施されること	事業計画が日本国内で実施されていることを、事業サイトを訪問して確認した。 排出削減事業実施場所：三郷工場：埼玉県三郷市市助 126-2 日高工場：埼玉県日高市原宿 487
追加性を有すること	1) 本事業は、法的義務等の遵守のために計画されたものではなく、CO2 排出量の削減を目的として実施されたことを、関係者への質問等により確認した。 2) 排出削減事業を実施せず、設備更新を行わない場合、既存設備を継続して利用できることを、現地において機器のメンテナンス記録などで確認している。 3) 排出削減事業の投資回収年数は三郷工場 4.8 年、日高工場 4.0 年である。投資回収年数計算の根拠データについて、質問及び検算、関連証憑との突合により正確性を確認している。 4) 株式会社白興は、従来より乾燥工程の効率化、排熱リサイクルやすすぎ用の水量の抑制といった取り組みを実施し、グループとして自然環境との調和に熱心に取り組んでいる。今回、国内クレジット制度の活用により、CSR 活動への取り組みに対するアピール効果が期待できることが、本事業への投資決定の重要な要因となった。
自主行動計画に参加していない者により行われること	排出削減事業者及び共同実施者へのインタビューにより、当事業者が自主行動計画制度に入っていないことを確認している。
排出削減方法論に基づいて実施されること	1) 本排出削減事業は、承認済排出削減方法論 001 に基づき排出削減量を計算しており、また、方法論の適用条件を満

	<p>たしていることを確認している。</p> <p>適用条件 1 については、既存ボイラー並びに新設ボイラーの機器仕様書(カタログ)を参照し、高効率のボイラー設備に更新されたことを確認している。</p> <p>適用条件 2 については、既存ボイラーの過去の点検記録を確認し、更新を行わなくても既存設備のまま継続的に使用できることを確認している。また既存設備の導入時期が三郷工場は平成 15 年、日高工場は平成 12 年であり、法定耐用年数以内の使用であったことも確認している。</p> <p>適用条件 3 については、事業実施前及び実施後のボイラー蒸気が、継続的に自家消費されている状況であること、今後も継続することを、現地視察及びヒヤリングによって確認している。なお三郷工場では、ボイラーが 1 台増設されているが、バックアップを考慮し導入されたものである。台数制御運転が実施されており、使用エネルギー量に変化がないことを確認している。</p> <p>2) その他、バウンダリの設定、ベースラインの設定、リーケージの特定、排出削減量、モニタリング方法が適切であることについて、それぞれ質問と関連証憑により確認している。</p>
--	--

上記の詳細については、別紙「排出削減事業の要件についての確認事項一覧」を参照すること。

#### 4. 特記事項

投資回収年数については、補助金を除いた純投資額をもとに算出している。

以上